

ARAI NEWS



新生「OMNI-2」STORY

Actual Story From Inside.

「全て」の意味を持つ「OMNI」が登場したのは5年も前のことですが、先進のシールドシステムと鮮烈なクラッシュバックは、ヘルメットの流れを文字通り「全て」変えてしまう大革命を起こしたものです。そして今、その革命児にアライの長年にわたる開発データの「全て」を注ぎ込む「OMNI-2」が誕生したのである。

「OMNI-2」の設計にあたってアライは初代OMNIに負けないものを作らねばOMNIのネーミングは許されないのだと、全面的な設計計画を立てました。シールド、かぶり心地、空力、ベンチレーションシステムなど、ヘルメットと構成する要素「全て」にわたって煮詰め直されたのです。

実績「ニュー」

まずは基本となる帽体ですが、御存知のようにヘルメットは、走行中の空気を左右に切り裂き、ヘルメットの上下面での流速差をゼロに近づけることによって、高速時のリフトと風切音をおさえています。帽体フォームは限りなく「球」に近くなめらかで、万の際にショックを吸収拡散させるものです。もちろんアライ独自のコンプレックス製法による超剛性ファイバークラス帽体構造が採用されています。見た目の変化を与えるのはたやすいが、肝心なのはその骨格となるものなのです。アライはまず目に見えない部分に手間をかけました。安全性をまず第一に考えるアライならではのヘルメット造りの信念が「こ」にも生きています。

シールドシステムはOMNIで世界初登場した実績ある、もうおなじみのシステムです。片手でスハツと開けられ、好きな位置にとこどもストップするストッパー付「OMNI-2」

では、さらにシールド板を1.5mm厚の曲面加工のものを採用し、システムファイバーリングを向上しています。

3ウェイニューベンチレーション

「OMNI-2」をパツと見て、もうお気付きかと思いますが、新設計の大容量シャッターがついています。このアゴ部のシャッターから流入した空気は、今まで通りの(1)一部は口元、(2)こめかみ部、そして(3)シールド裏面に吹き上げて雲り止めをした後に、ニューモラステッククッション材の隙間を通り後頭部へと抜ける。以上の3ウェイニューベンチレーションシステムとなり、より快適なライディングを生み出します。

新設計のインナーライナー

内装はまったく新しいアライ初登場のインナーライナーを採用しています。前後にはベンチレーション効果を引き出すニューモラステッククッション材を、サイドとホボの部分には特殊吸水性機構を持ち、なおかつ長年の使用にもタレが少ない高級ナイロントリコットを使用しています。アゴ紐も肌に当たる部分にはナイロンバイエル地が使用され、ピッタリとフィットしながらも優しさを保ちます。ホボパッドも2段階構造となり、レーサー志向のラバードとは違って、ロング・ツーリングにも十分耐えうるニュー感覚の快適フィット感が得られます。

キミに「全て」の満足感を

鮮やかに流れるデザインとリアのストロポ入りの「OMNI」ロゴが入る新生「OMNI-2」。ヘルメットの本質は何であるかを理解するキミならきっと満足してくれると思います。アライは自信を持って今、「全て」をキミにお届けします。

速報 デイトナ200byARAI

3月9日に行なわれたデイトナ200mileレース、残念ながら我々がフレディー・スペンサー選手は悪性の風邪により不出場となりましたが、日本から遠征した辻本聡選手が予選でフロントローの4位を獲得。ヒートレースでも3位と好成績を納めて決勝レースへと望んだ。前半は3番手をキープし、2~4番手争いを続けましたが、マシントラブルを起こし、33周目にリタイアとなりました。しかし、その走りは、全米関係者の間でも注目的となり、彼の今後の走りに大いなる自信をつけさせたことでしょう。結果は以下の通りです。

POS1	LAP	RIDER	MACHINE
1	57	Eddie Lawson	YAM
2	57	Kevin Schwantz	SUZ
3	57	Fred Merkel	HON
4	57	Wayne Rainey	HON
5	56	Jay Springsteen	YAM
6	55	Rueben Mcmurter	YAM
7	55	Vesa Kuitalahti	YAM
8	55	John Ashmead	HON
9	55	Anders Anderson	SUZ
10	54	Jim Filice	YAM